

高校を核とした新たな人づくり・人のながれづくりプロジェクト

《事業概要》

屋久島町第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「基本目標Ⅱ：屋久島を起点とした教育・交流・移住サイクルの確立」の数値目標として屋久島高校の生徒数 240 人以上を挙げており、「戦略プロジェクト：キャリア教育プロジェクト」の関連する具体的事業として、屋久島高校に関連するいくつかの事業を掲げていることから、屋久島町と屋久島高校は「屋久島高校魅力化プロジェクトに関する協定書」を締結し、町内外のこども達が、より一層屋久島高校への進学を選択しやすくなるよう、支援を行ってきました。

「高校を核とした新たな人づくり・人のながれづくりプロジェクト」については、屋久島高校魅力化プロジェクトの一環として取り組んでいるもので、地方の魅力的な教育環境を全国の先駆的な自治体と一体となって都市部に届けることで、地域の高校留学という選択肢をつくるプロジェクトです。

《事業の成果》

■地域みらい留学参加負担金

R 4 年度町決算額： 880 千円 地方創生推進交付金（内閣府） 補助率 1 / 2

都市部等での中学生親子に向けた合同説明会「地域みらい留学フェスタ」の開催負担金に地方創生推進交付金を活用しており、事業実施による受入実績は以下のとおりです。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
町外からの生徒数 受入実績(入学)	2名 (埼玉県、神奈川県)	3名 (東京都、大阪府2)	3名 (東京都、宮崎県) ※1名は11月末で転学	7名 (宮城県、東京都、埼玉県、愛知県、兵庫県、広島県、宮崎県)

■屋久島町町外高校生受入支援事業

R 4 年度町決算額： 3,948 千円 離島活性化交付金（国土交通省） 補助率 1 / 2

屋久島高校の生徒数の維持のために、「地域みらい留学フェスタ」等をとおして町外から屋久島高校への入学を希望する生徒を募集し、下宿等に係る費用を支援しています。

令和4年度は、3年生2名、2年生3名、1年生3名に対して補助を行いました。

支援内容	1. 町外からの入学者に対する下宿費等の補助	40,000円/月
	2. 町外からの入学者に対する帰省旅費等の補助	上限30,000円/年

※ 「高校を核とした新たな人づくり・人のながれづくりプロジェクト」以外の事業として高校スクールバスの料金低廉化（どの集落からでも一律 4,000 円）や教育支援アプリ（スタディサプリ）の導入支援も実施しています。

《今後の課題》

- (1) 下宿等、町外高校生の受入先の不足
- (2) 高校卒業後（特に県外生）を高校や地域と結びつける仕組みがない。

《屋久島高校の状況》

■令和5年度入学生の出身校等

	中央中学校	安房中学校	岳南中学校	金岳中学校	県外	合計
普通科	21	7	6	0	8	42
情報ビジネス科	17	7	3	1	1	29

■最近5年間の卒業後の進路

進路区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
進学	国公立	4大	6	7(2)	7	5(1)	16
		短大	2	0(3)	2	1	1
	私立	4大	8	13	15	11	12
		短大	10	5	3	5	3
	文科省管轄外		2	0	0	0	3
	専修学校等		24(1)	19	31	24	19
	小計		52(1)	44(5)	58	46(1)	54
就職	公務員		5	8	1	5	3
	一般企業		20	21	9	11	20
	小計		25	29	10	16	23
その他(未定も含む)		6	2	4	6	4	
合計		83(1)	75(5)	72	68(1)	81	

※1 縁故就職を含む ※2 進学就職は就職を含む ※3 () の数は既卒生を示す

「高校を核とした新たな人づくり・人のながれづくりプロジェクト」への評価・コメント

- ・ 町外から屋久島高校への受け入れ数が年々増えているのは事業に良く評価するところだと思います。
- ・ 全国的に生徒数の減少が進む中、今後の屋久島高校の在り方、魅力をほりさげていく必要があると思いました。
- ・ 屋久島高校に留学した方たちに、どういった理由で屋久島を選んだのか、具体的な理由を知りたいと思いました。
- ・ 島外からの屋久島高校への受け入れにあたり、下宿先の確保など具体的な課題が見えてきている。
- ・ 地方の魅力的な教育環境をPRするとともに受入環境の整備に引き続き取り組んで欲しい。
- ・ 令和4年度は地元の高校から国公立大学に前年度からすると3倍以上の進学者が出ていると、相乗効果が生まれていると考える。
- ・ 非常に屋久島高校頑張っていると思います。これを持続させないといけない。高校だけにフォーカスを当てているが、高校に入ってくる中学校をどうするかと、中高連携の在り方、私立は中高一貫教育をしている。公立も中高連携が必要である。先輩たちが優秀でがんばって進学していることを情報共有して、保護者にもPTAにも住民にも知っていただいて、応援の部隊をつくる。いくら理念を言っても現実的な対応をしないと非常に厳しくなっていくではないかなと思います。がんばっている実績を維持していく必要があり、プロジェクトの成果の意義はあるのかなと思う。
- ・ ファミリー単位での移住の戦略も必要かなと思う。何を基準に屋久島高校を選択したのかの理由が大切。選択の理由のなかのプライオリティの順位がある。屋久島でしか学べない教育をいかに作るか。教育内容の魅力化が必要。僻地と小規模学校の充実が県での課題。
- ・ 民宿に下宿をお願いするのは、少人数では採算の問題もある。下宿専門でできると良い。地域の分散をするとなると難しいと思う。